

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 854 aprilo 2022

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

ENHAVO

『エロシェンコのシベリアものがたり』覚書 … 染川 隆俊 1-2
 初心者のための語尾なし単語の使い方(109) .. 相川 節子 2
 楽しい作文教室(128) 塚本 猛 3
 日本昔話(12) 花咲翁(はなさかじじい) 島谷 剛 4-5
 楽譜: 花さかじじい 石原和三郎 / 田村虎蔵 / 島谷剛 5
 対訳: 源氏物語 第45帖 橋姫(2)..... 紫式部/belmonto 6-7
 Kajero Libervola: Venki handikapon per espero
 KITAGAWA Ŝyozi 8
 第70回関西エスペラント大会 Informilo 9-12
 Rememoro Antaŭ Duonjarcento - pri "La Movado"-
 SIBAYAMA Zyun'iti 13
 vidis eksciis sentis: Ŝoseo tra Azio ... vorticelo 14
 Monumento pri Sinran Redakcio 14
 コロナ下の例会運営の一例 京都 水曜クラス 15
 Salono: エスペラント版仏教聖典について...山口 真一 16
 La Movado: 「中四国だより」1000号に、ほか..... 16
 Okazas milito en Ukrainio..... 16
 やさしい本の紹介(2)..... 17
 Vortkruca enigmo / 作文教室成績 18
 La Movado 閲覧検索を購入されている方へ 19
 作文教室課題 / KLEG事務局だより 19
 Kurantaj Vortoj (SWIFT ほか) 19
 編集ノート 20

『エロシェンコのシベリアものがたり』 覚書

染川 隆俊 (関西エスペラント連盟図書部)

高杉一郎の翻訳「チェスの三手詰め問題」を出版できないかと、エロシェンコ生誕 125 周年記念事業実行委員会(以下、委員会)から提案があった。高杉が『エロシェンコ全集』(みすず書房、1959年)を編集したとき、この作品はまだ広く知られておらず収録されていない。のちに高杉は翻訳したが、発表の機会はないままに過ぎた。その翻訳が高杉の遺した資料から見出されたという。Elektitaj verkoj de Vasilij Eroŝenko(エロシェンコ選集)の編集にあたった峰芳隆が失われることを危惧していた翻訳である。

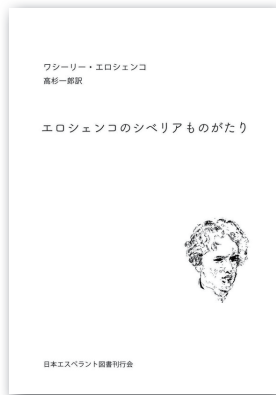
チュクチ半島に滞在した経験をもとにエロシェンコは「チェスの三手詰め問題」を書いた。同じ背景をもつ「挽歌」「牧歌」「盲目のチュクチ人」を含めた対訳版での出版を委員会が提案していた。エロシェンコ選集第2巻 *La tundro ĝemas* にこれらはすべて収められている。ほぼ同じ内容の書籍となるため、対訳版の発行はためらわれた。翻訳の本誌掲載を打診したが、書籍の刊行を望む委員会の意向にはそぐわないようであった。

エロシェンコを童話作家ととらえる向きがある。

しかし「チェスの三手詰め問題」の印象はずいぶんと趣を異にする。エロシェンコ自身がモデルと思われる主人公はチュクチ滞在を「人生のなかでももっとも苦悩にみちた数か月をそこで過ごすことになった」と回想する。リギ・オラヴィルリ(ほんとうの人間)と自らを

よぶチュクチの人びとに同化を強いる硬直した官僚主義が主人公らをじりじりと追い詰めていく描写には戦慄を感じる。スターリンが第一次五カ年計画を発表し、クラーク(富農)が消滅したとされる年、政治的な批判に追い詰められたアヴァンギャルドの詩人マヤコフスキーが自死を選んだ年、エロシェンコのチュクチ滞在の年代がこれらと重なりあうことに高杉は注意を促している。

「チェスの三手詰め問題」以外の作品も重く暗い雰囲気をつたえる。「太陽の下で、大きな海が眠っ



ている／海のそばで、小さな私が眠っている」と叙情的に書きだされる「牧歌」、海辺に寝そべる私の上には青空があり、下には美しい色の小石があるという伸びやかな描写からはじまる「挽歌」、どちらも穏やかな状態は長くつづかない。海に小舟をさらわれた私は「大きいものが、なぜわるさをするのか／つよいものが、なぜ弱いものをいじめるのか」と呼びかける（「牧歌」）。銃声が響く。カラスが鳴きはじめ、手にとまった蚊が血を吸う。小石に手を触れて私は思う。巨大な石は砂となりただの埃になってしまう。「そうだ。私たちはみんな、ただの埃になってしまうのだ」（「挽歌」）。「盲目のチュクチ人」は極北の地で懸命に生きる人びとを描いて哀しく美しい。エロシェンコが親交を結んだであろうチュクチの人びとのくらしぶりを彷彿させる。

作品のもつ力に翻訳を公にしたいという思いを強めていった。高杉編訳の『エロシェンコ童話集』（偕成社文庫）を除けば、いま書店店頭で手にできるエロシェンコの本がほとんどないという状況にもさびしさを感じていた。そういうなか、対訳版ではなく

日本語版での出版を考えたいと委員会から提案が寄せられた。一定部数の買い取りも約束されており、発行部数の上乘せも期待できる。こうして出版への動きが具体化した。

作品だけでなくエロシェンコを紹介する文章が必要だと考えた。作家の軌跡をたどることは理解を深める一助となるだろう。これは新しく準備できず、*La tundro ĝemas* 所収の峰による小伝の翻訳に代えた。ただしこれが書かれたのは1980年、冷戦が終結し、ソ連邦が解体するはるか以前の文章である。その後明らかになった事柄は注釈を加えることで補った。峰が存命であれば必ずや全面的な書き直し、いや新稿を書いたと確信する。これでいいのかと泉下の峰から叱責を受けることは必定だ。

田中泰子・大阪大学名誉教授は敬慕の念あふれる「父、高杉一郎の思い出」をご執筆くださった。人間高杉の魅力を伝える好個の文章である。第一創作集『夜明け前の歌』刊行から一世紀を経て、エロシェンコの文学はますます光を放つと信じたい。

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (109)

相川 節子

関連詞 (43) ĉiom

「全部の数量」を意味する単語です。

La salato estis bongusta! Mi manĝis ĉiom.

(サラダがおいしかった。全部いただきました)

La lupo englutis ĉiom el la kapridoj.

(狼は、子山羊たち全員を飲み込んだ)

En la foiro mi uzis ĉiom da mono, kiom mi havis.

(市場で、わたしは持っていたお金を全部使った)

個人的な経験からですが、日常会話の中でこの単語はあまり聞きません。辞書の用例もわずかです。コーパス (Tekstaro de Esperanto) ではそこそこ用例が出てきますが…。たぶん、通常の会話なら ĉiom より使い慣れた ĉio や ĉiu の方が先に頭に浮かぶため、ĉiom の出る幕がないのだと思います。上記の例文の *Mi manĝis ĉiom* は *Mi manĝis ĉion* と言っても同じような意味になるし、*ĉiom el la kapridoj* は *ĉiujn kapridojn* の方が、むしろわ

2022.04

かりやすいかもしれません。

関連詞 (44) neniom

「数量ゼロ」を表す単語です。また具体的な数量だけでなく、「程度」についてゼロレベルだと言いたいときにも使います。前項の ĉiom に比べると、日常会話で使う頻度が大きい単語です。

“Kiom vi pagis por la biciklo?” “Neniom. Mi ĝin ricevis de mia amiko senpage.”

(「その自転車にいくら払いました?」「何も払っていません。友人からタダでもらったんです」)

“Kiom da infanoj vi havas?” “Neniom mi havas.”

(「お子さんは何人ですか」「ひとりもいません」)

La knabino staradis sur malvarma strato, sed neniom da alumeto vendiĝis.

(少女は寒い通りに立ち続けたが、マッチは一本も売れなかった)

“Ĉu mia ĉeesto ne ĝenas vin?” “Ne, vi ĝenas neniom.”

(「わたしがここにいたらご迷惑ではありませんか」「大丈夫。少しも迷惑にはなりませんよ」)



①地下数十キロから下に厚いマントルがある。

【訳例 1】 Troviĝas dika termantelo malsupren de dekoj da kilometroj subtere. (一部修正: ikona)

【訳例 2】 Estas dika termantelo ekde kelkdek kilometroj subtere. (一部修正: 松村) 〻 解説

「地下の」は subtera、この「キロ」は長さですから kilometro が使えます。「厚い」は dika (厚い、太った)、マントルは mantelo (マント、コート) ですが地学の用語なので termantelo というほうがいいかもしれません。

このマントルは地下数十キロから始まり、より下方の地下二千九百キロくらいまでつづく厚い層です。訳例 1 の dekoj は数十の意味なので kelkaj dekoj (数十の) の方が分かりやすいと思います。

訳例 2 ですが、ekde (～から) は時間的な用法なのでここでは使えません。空間的な意味だと明示したい場合は de ĉe や disde が考えられます。他に de post (～から後) も時間的な用法です。なお、de antaŭ (～の前から) はエスペラント日本語辞典 (JED) によると場所に関してですが、辞典 PIV では ekde と同様時間的な用法との記述があります。

②マントル上部には溶けた岩、マグマがある。

【訳例 1】 Ĉe la supro de la mantelo estas fandita roko, magmo. (Drako)

【訳例 2】 Supra parto de termantelo estas degelinta roko kaj magmo. (Eiko) 〻 解説

【訳例 3】 Solvitaj rokoj kaj magmo ekzistas en la supra termantelo. (Haveno) 〻 解説

「溶ける」は fandi ion (固体を熱で溶かす)、「マグマ」は magmo (溶融した造岩物質) で表現出来るでしょう。マグマは高温で流動性がありますが結晶や揮発成分も含まれます。

訳例 2 の degeli は雪や氷が熱によって液化化するという意味ですが、氷が解けるように少しずつ小さくなる意味でも使います。マグマの表現には向かないと思います。また roko kaj magmo だと「岩とマグマ」になり、題意とは異なります。

訳例 3 の solvitaj rokoj ですが solvi ion は液体中に他の物質を混合するという意味です。solvi

salon en akvo (塩を水に溶かす) というような場合に使います。また、溶けた岩がマグマなので kaj で繋ぐのは違うと思います。

③私たちが暮らしているのは薄い地殻の上だ。

【訳例 1】 Ni vivas sur maldika terkrusto. (Drako, CA)

【訳例 2】 Ni vivas sur la maldika terkrusto. (ヒー坊, Ivajo, ikona, Haveno)

【訳例 3】 Estas sur maldika terkrusto, ke ni vivas. (松村) 〻 解説

「暮らす」は vivi (生きる、生活する)、地殻には krusto (固くなった外皮、地殻) が使えます。

訳例 1、訳例 2 は単文で表現した例で、違いは la の有無ですが la は無くてもいいと思います。「地殻」は例のように terkrusto のほうがはっきりするでしょう。「パンの皮」は pankrusto、パイの「クルスタード」は krustajo と言います。

訳例 3 は複文ですが、この場合は ke ではなく kie でしょう。あるいは考えを変えて「薄い地殻だ」と「私たちが暮らしているのは～の上だ」とに分けて考えれば estas maldika terkrusto, sur kiu ni vivas のように表現できると思います。

④その事実を知った今、平静ではいられない。

【訳例 1】 Nun, kiam ni sciis la fakton, ni ne povas resti trankvilaj. (CA) 〻 解説

【訳例 2】 Nun kiam ni sciis tiun fakton, ni ne povas esti trankvila. (ikona) 〻 解説

【訳例 3】 Nun, kiam ni sciigis la fakton, ni fariĝas maltrankvila. (綴り修正: Ivajo) 〻 解説

「事実」は fakto、「平静」は trankvila (平静な、安心した)、「いられる」は resti (ずっと～である) や esti (いる) が使えるでしょう。

訳例の nun kiam は原因・動機を示す従属接続詞です。nun の後のコンマは不要でしょう。訳例 1 と訳例 2 では kiam 節が過去形になってますが、scii ion は線動詞ですし、現状は「知っている」のですから現在形の方がいいと思います。

訳例 3 は「事実を知り不安になる」と表現しています。sciigi は自動詞なので対格ではなく前置詞 pri を使いましょう。なお、訳例 2 も同様ですが、主節の主語は ni (私たち) ですから、形容詞は数を一致させて複数形にします。

成績は p.18、新しい課題は p.19

Avo florigis nudajn arbojn

rerakontis SIMATANI Takesi

Antaŭ multaj jaroj ie vivis Bona Avo. Najbare al li vivis ankaŭ Malbona Avo.

Bona Avo tenis hundon. Li amis ĝin. Iun tagon en angulo de lia ĝardeno bojis la hundo boj', boj'. Bona Avo fosis tie kaj trovis multe da oraj moneroj.

La najbara Malbona Avo prunteprenis la hundon. La hundo ne bojis en lia ĝardeno. Malbona Avo suferige bojigis ĝin.

“Bone, ĉi tie estas oro!” Malbona Avo fosis tie kaj trovis nur multe da malpuraĵo. Kolere li batmortigis la hundon.

Bona Avo iris al la najbaro por repreni la hundon. Malbona Avo tamen diris. “Pro via hundo mia ĝardeno estas plena de malpuraĵo! Mi batis kaj la hundo mortis!”

La morto de la amata hundo ĉagrenis Bonan Avon. Nenion li tamen povis fari por la hundo. Li prenis la kadavron kaj enterigis ĝin sur monteto. Tie li plantis arbidon.

La arbido kreskis kaj fariĝis granda arbo. El la arbo Bona Avo faris pistujon. Iun vintran tagon li pistis moĉion* en la pistujo. Tiam el la moĉio aperis multe da oraj moneroj.

Tion enviis Malbona Avo. Li trude prunteprenis la pistujon kaj pistis moĉion. El lia moĉio tamen aperis multe da malpuraĵo. Kolere li dishakis kaj bruligis la pistujon en sia forno.

Bona Avo iris al la najbaro por repreni la pistujon. Malbona Avo tamen diris. “Pro via pistujo mia domo estas plena de malpuraĵo! Mi dishakis kaj bruligis vian pistujon!”

Tio ĉagrenis Bonan Avon. La pistujo estis unusola memoraĵo de la hundo. Li prenis cindron el la forno kaj metis ĝin en korbon.

Reirvoje vento forblovis iom el la cindro. Tiam ekfloris vintraj nudaj arboj. En granda

花咲爺 (はなさかじい)



島谷 剛 再話

昔々あるところに正直なおじいさんと欲深いおじいさんが隣り合わせに住んでいました。

正直なおじいさんは、犬を飼って、かわいがっていました。ある日犬が裏の畑でワンワンほえるので正直なおじいさんが掘ってみると、小判がたくさん出てきました。

隣の欲深いおじいさんは、犬を借りて、自分の畑に連れていきましたが、犬はほえません。欲深いおじいさんは犬をいじめて無理になかせました。

「そうか、そうか、ここに小判が埋まっているんじゃない」欲深いおじいさんが掘ってみると、汚いゴミがたくさん出てきました。欲深いおじいさんは怒って犬を打ち殺しました。

正直なおじいさんは隣の家に犬を返してもらいに行きました。でも、欲深いおじいさんは言いました。「犬のせいで、畑がゴミだらけじゃ。けしからん犬じゃで打ったら死んでしまうた」

かわいい犬が死んだので正直なおじいさんは嘆き悲しみましたが、殺された犬が生き返るわけありません。犬のなきがらを引き取って裏山に埋め、その上に苗木を植えました。

苗木は大きくなり、やがて大木になりました。正直なおじいさんはその木を切って白を作りました。冬が来て、正直なおじいさんがその白でもちをつくと、もちの中から小判がザクザク出てきました。

隣の欲深いおじいさんはうらやましくなり、無理やり白を借り出しました。欲深いおじいさんがもちをつくと、もちの中からゴミがわき出して、家をいっぱいにしました。欲深いおじいさんは怒って、白を打ち壊して燃やしてしまいました。

正直なおじいさんが白を返してもらおうとたずねてゆきますと、「あの白のせいで、うちの家がゴミだらけじゃ。けしからん白じゃで打ち壊して燃やしてしまうた」

正直なおじいさんは愛犬の形見がなくなって残念でしたが、燃やされてしまったものはしかたがありません。かまどの灰をすくって、かごに入れました。

帰り道に、風が吹いてかごに入れた灰が飛び散りました。すると、冬なのに枯れ木に花が咲いたではありません

ĝojo Bona Avo iris al granda vojo.

Li kriis. "Floru arboj nudaj! Floru arboj vintraj!"
Kaj li disĵetis la cindron al la arboj laŭ la vojo.

Kiam ekfloris ĉiuj nudaj arboj, hazarde alvenis Granda Sinjoro. Li tre ĝojis kaj donis multe da rekompenco al Bona Avo.

Ankaŭ tion enviis Malbona Avo. Li trude prunteprenis la cindron kaj iris al la granda vojo. Li disĵetis la cindron al la arboj laŭ la vojo. La cindro tamen ne florigis la arbojn, sed pikis la okulojn al la Granda Sinjoro hazarde alveninta. Li tre koleris kaj severe punis Malbonan Avon.

んか。正直なおじいさんは喜んで、街道へ行きました。

「枯れ木に花を咲かせましょう！ 枯れ木に花を咲かせましょう！」正直なおじいさんは灰をまきました。

辺り一面の枯れ木に花が咲きました。お殿さまが通りかかり、とても喜んで、たくさんのご褒美をくれました。

それを聞いた隣の欲深いおじいさんは無理やり灰をもらって街道へ行き、木々に灰をまきました。でも、花は咲かないで、まいた灰が通りかかったお殿さまの目に入りました。お殿さまはとても怒って、欲深いおじいさんを、とても、とてもひどい目にあわせました。

*moĉio: kuko el vaporkuirita rizo.

Avo Floro (花さかじい)

poez. IŜIHARA Ŭasaburoo, muz. TAMURA Torazoo, trad. SIMATANI Takesi



1) En kor - to Bo - nan A - von vo - kis li - a hund'
2) Aŭ - dis Mal - bo - na A - vo, i - ris kun la hund'
Ki - am li fo - sis si - an te - ron ĝis pro - fund',
Ki - am li fo - sis si - an te - ron ĝis pro - fund',
mul - te da mo - ne - roj o - raj
mul - te da te - go - loj a - ĉaj
li el - fo - sis el ĝi - a fund'
li el - fo - sis el ĝi - a fund'

Avo Floro (花さかじい) poez. IŜIHARA Ŭasaburoo, muz. TAMURA Torazoo, trad. SIMATANI Takesi

1) En korto Bonan Avon vokis lia hund'
Kiam li fosis sian teron ĝis profund',
multe da moneroj oraj li elfosis el ĝia fund'
2) Aŭdis Malbona Avo, iris kun la hund'
Kiam li fosis sian teron ĝis profund',
multe da tegoloj aĉaj li elfosis el ĝia fund'
3) Faris pistujon Bona Avo por memor'
Pistis moĉion en ĝi varman kun vapor'
Multe da moneroj oraj, multe venis al li trezor'

4) Pruntis pistujon la Malbona Avo for
Pistis moĉion en ĝi varman kun vapor'
Multe da tegoloj aĉaj, multe venis al li fetor'
5) Al arboj Bona Avo cindron ŝutis for
Floris la branĉoj nudaj belaj en kolor'
La Sinjoro ĝojis multe, laŭdis lin per riĉa trezor'
6) Al arboj la Malbona cindron ŝutis for
Vundis l' okulojn de Sinjoro kun dolor'
La Sinjoro pro kolero en karceron ĵetis lin for

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

45 La Nimfo de la Ponto – Fasi Fime – (2)

源氏物語 第45帖 橋姫 はしひめ

* Kavoru estas 20-jara

eljapanigis belmonto

Same al antaŭe la sceno de la lago kaj la monto en la tereno de la palaco montriĝis vasta kaj ellaborita, sed ĉio ruiniĝis. La Princo rigardis ilin enue kun neniofaro. Ne ekzistis diligenta domadministranto kaj neniuriparis. Sovaĝaj herboj kreskis en plena forto, kaj verdaj davalioj kovris la tutan aleron, okupante sian lokon. Rigardi kolorojn de variaj floroj kaj ruĝiĝintaj folioj laŭsezonaj kaj flari ties odoron^{*1} en la sama koro - la paro konsoliĝis en multaj okazoj, sed nun nur li fariĝis tro soleca sen ŝi, ne havante ion apogi. Li ornamis la budhostatueton kun fervoro, kaj servis al Budho matene kaj vespere.

Zorgi nur infanojn estis bedaŭrinde eksterordinare kaj li triste kaptis sian ideon monaĥiĝi nerealigebla sorto, spite al sia deziro. Li rezignis ordinaran aferon en la socio laŭ paso de jaroj, ke li edziĝu refoje, kaj fariĝis apenaŭ monaĥo en laikeco. Depost kiam la edzino forpasis, li ne havis ideon tuŝi virinan korpon eĉ en ŝerco. La ĉambelaninoj konsilis kun kritiko:

“Ne tro pensu. Malĝojo de disiĝo subpremigus vin tre severe en la mondo, sed tio fariĝos neserioza post forpaso de jaroj. Post ĉio bonvolu sekvi la socian komunan kutimon akcepti novan edzinon. Tiam nia vivo pli bone kuros en ĉi tiu palaco, nun tiel mizere aspektanta kaj senapogebla.”

Ili ofte menciis dezirojn de aliaj familioj kiuj volas havi rilaton kun li, la nobla princo, en multaj okazoj, sed li ne havis orelojn aŭskulti.

Kiam li estis libera de la sutrorecitado, li ludis kun la infanoj, kaj laŭ ilia kreskiĝo li instruis al ili kordinstrumentojn, trejnigis per la goludo, kaj ne tiom serioze amuzis ilin

sasugan al ĉi tiu koro de la lago kaj la monto en la tereno de la palaco montriĝis vasta kaj ellaborita, sed ĉio ruiniĝis. La Princo rigardis ilin enue kun neniofaro. Ne ekzistis diligenta domadministranto kaj neniuriparis. Sovaĝaj herboj kreskis en plena forto, kaj verdaj davalioj kovris la tutan aleron, okupante sian lokon. Rigardi kolorojn de variaj floroj kaj ruĝiĝintaj folioj laŭsezonaj kaj flari ties odoron^{*1} en la sama koro - la paro konsoliĝis en multaj okazoj, sed nun nur li fariĝis tro soleca sen ŝi, ne havante ion apogi. Li ornamis la budhostatueton kun fervoro, kaj servis al Budho matene kaj vespere.

かかるといふに、おもむき宮の、池山などのけしきばかり昔に変わらでいといたう荒れまさるを、つれづれとながめたまふ。家司(けいし)などもむねむねしき人もなかりければ、とり繕(つくろ)ふ人もなきまに、草青やかに茂り、軒のしのぶぞ所え顔に青みわたれる。をりをりにつけたる花紅葉(もみぢ)の色をも香(か)をも、同じ心に見はやしたまひしにこそ慰むことも多かりけれ、いとどしくさびしく、よりつかむ方なきままに、持仏(ぢぶつ)の御飾(かざり)ばかりをわざとせさせたまひて、明け暮れ行ひたまふ。

かかる絆(ほだし)どもにかかづらふだに思ひの外(ほか)に口惜(くし)う、わが心ながらもかなはざりける契(ちぎ)りと思(おぼ)ゆるを、まいて、何にか世の人めいて今さらにとのみ、年月(としつき)にそへて世の中を思し離れつつ、心ばかりは聖(ひじり)になりはてたまひて、故君(こきみ)の亡(な)せたまひにしこなたは、例(れい)の人のさまなる心(こころ)ばへなど戯(たはぶ)れにても思し出でたまはざりけり。

「なかさしも。別(わか)るほどの悲(かな)しきは、また世にたぐひなきやうにのみこそは思(おぼ)ゆべかめれど、あり経(ふ)ればさのみやは。なほ世人(よひと)にならずらふ御心(ごこころ)づかひをしたまひて。いとかく見苦しくたづきなき宮の内(みやのうち)も、おのづからもてなさるわざもや」

と、人はもどききこえて、何くれとつきづきしく聞こえごつことも類(るい)にふれて多かれど、聞こしめし入れざりけり。

御念誦(ねんず)の際(ひま)々には、この君たちをもてあそび、やうやうおやすけたまへば、琴(こと)ならはし、碁(ご)打ち、偏(へん)つぎなどはかなき御遊(ごあそび)びわざにつけても、心(こころ)ばへどもを見たてまつりた

per literkunmetado de ĥinliteroj*²; per tio li eksciis ilian karakteron. La pli aĝa filino estis klera, prudente digna, kaj la malpli aĝa estis vastanima kaj alloga, kaj la pripensema stato estis ĉarma. Ili ambaŭ estis superaj.

3. *la tri utas*

La Oka Princo ĝis tiam preteraŭdis pepadon de akvobirdoj, batadantaj per flugiloj tuj apude, sur la lago en la serenaj sunradioj de la printempo, kaj nun kun envio rigardis ilin, ne apartiĝi de la paro. Vidante la scenon li instruis muzikinstrumentojn al la filinetoj. Ilia ludado sonis sopire bela laŭ la plektrantaj fingretoj respektive, kaj larmoj aperis ĉe la okuloj de la Princo.

“Patrinbirdo lasis posten
Patrobirdon en mizero
Kiel vivos birdfilinoj
Postlasite en la mondo?”

Ne ĉesiĝas zorgado.”

Li forviŝis larmojn. Lia figuro estis noble pura. Li malgrasiĝis pro la malriĉa senavara servado al Budho dum jaroj, pro kio kontraŭe li aspektis pli nobla kaj eleganta. Por zorgi infanojn ĉiam li vestis sin per deamelita noŝ-vesto, sed senartifika figuro montriĝis tre ĝentila kaj gracia. La granda princino silente prenis al si tuĉŝtonon kaj skribis literojn dise sur ĝia surfaco. La patro diris, donante paperon:

“Skribu sur ĉi tiu. Oni ne skribas sur tuĉŝtono.”

Ŝi hontis kaj skribis jenon:

Kiel strangas mia kresko
De la kovo protektita!
La fatalon mi eksciis
Flosan kiel akvobirdo

Ne tiel bona utao, sed ĝi penetris lian koron. Ŝia skribmaniero montris ŝian estontecan lertecon, tamen nun estis tro juna por skribi senapartajn literojn. (daŭrigota)

まふに、姫君は、らうらうじく、深く重りかに見えたまふ。若君は、おほどかにらうたげなるさまして、ものづつみしたるけはひにいとうつくしう、さまざまにおはす。

春のうららかなる日影に、池の水鳥どもの翼(はね)うちかはしつおのがじし囀(さへつ)る声などを、常ははかなきことと見たまひしかども、つがひ離れぬをうらやましくながめたまひて、君たちに御琴(こと)ども教へきこえたまふ。いとをかしけに、小さき御ほどに、とりどり搔(か)き鳴らしたまふ物の音(ね)どもあはれにをかしく聞こゆれば、涙を浮けたまひて、

「うち棄てて
つがひなりにし水鳥の
かりのこの世に
たちおくれけん

心づくしなりや」

と、目おし拭(のご)ひたまふ。容貌いときよげにおはします宮なり。年ごろの御行ひに瘦せ細りたまひにたれど、さてしもあてになまめきて、君たちをかしつきたまふ御心ばへに、直衣(なほし)の菱(な)えばめるを着たまひて、しどけなき御さまいと恥づかしげなり。姫君、御硯(すずり)をやをらひき寄せて、手習のやうに書きまぜたまふを、

「これに書きたまへ。硯には書きつけざなり」

とて紙奉りたまへば、恥ぢらひて書きたまふ。

いかでかく
巢立ちけるぞと思ふにも
うき水鳥の
ちぎりをぞ知る

よからねど、そのをりはいとあはれなりけり。手は、生(お)ひ先見えて、まだよくもつづけたまはぬほどなり。

(つづく)

*1 cito el la utao el la utaaro “Kokin”

*2 Ankaŭ referencu la ĉapitron 27 de la kajero 9 “Malvo” .

障害を持って生まれたら、希望を掲げて立ち向かっていくより他にない。そのことを私は特別支援の学校とわが息子の家庭で学んだ。

Naskiĝis mia nepino (la dua filino de mia filo) kiel handikapito. Nun ŝi estas 9-jara kaj vizitadas publikan lernejon por speciala subtenado. En ŝia kromosomo estas nenormalaĵo, kiu tamen estas alia ol tiu de Daŭn-sindromo, tiel ke ŝia stato estas duone malsama ol ĝi. Ŝi ankoraŭ ne povas paroli kaj paŝi. Kompreneble intelekta kapablo ege stagnas, kaj pro tio al mi ne certas, ĉu ŝi povas rekoni siajn patron kaj patrino. Malgraŭ tio, ŝi esprimas ĝojon tutkorpe, kiam ni, geavoj vizitas ŝian hejmon por vidi ŝin. Ĉar ŝi povas iel rampi sur la ventro, trovinte interesan aĵon, ŝi ekiras por preni ĝin. Kaj kiam iu familiano petole ludas kun alia infano, ŝi kolere postulas fari saman agon ankaŭ por si. Krom tiaj okazoj ŝi ĉiam kviete ridetas, tiel ke tuta familio estas en trankvilo.

Post ne longe de ŝia naskiĝo la gepatroj rimarkis, ke ŝia stato ne estas normala, kaj ili petis de la specialisto precize esplori kialojn. Baldaŭ evidentiĝis, ke ŝi havas nenormalaĵon en kromosomo. En tiu malordo estas malmultaj ekzemploj, laŭ kiuj oni ne povas havi esperon, ke ŝi kreskos ordinare. Necesas por ni atente rigardadi ŝian propran kreskadon. Povas esti, ke ŝiaj gepatroj portempe malesperis pri ŝia estonto, sed ili post nelonge decidis firme vivi kune kun ŝi handikapita.

Cetere, mi laboris lastajn 4 jarojn de mia instruisteco kiel vicestro en la lernejo por handikapitaj lernantoj. Ĉar dum 34 jaroj mi instruis japanan historion kaj sociajn problemojn en la supera mezlernejo, tiu ŝanĝo embarasis min, kaj luktis kun multaj ĉagrenaj aferoj, sed tiutempe mi neniam supozis, ke poste tieaj

spertoj ege utilos por mia aktuala vivo.

Handikapitaj lernantoj konsistas el diversaj kampoj: intelektaj, fizikaj, kaj malsanaj/mensaj kaj eventuale kumule. En mia lernejo troviĝis la tutvariaj krom la vidaj kaj la aŭdaj, sekve mi povis precize observi, kiel ili vivas kaj lernas. Krome, tie etendiĝis ĉiutagaj edukoj, en kiuj fakaj instruistoj planas kaj efektivas la programojn konvenajn laŭ gradoj de la malkapabloj de la respektivaj lernantoj vetante je ilia ebleco.

Ekzemple, mi memoras jenan scenon: la patrino de iu aŭtismo elementlernejana ĝoje larmis, kiam ŝia filo glate parolis parkere siajn longajn tekstojn en la teatraĵeto de la lerneja festivalo; Tiaj aliradoj kreskigas la lernantojn ĝis la limo de ilia kapablo, kaj tio ligiĝos al forto vivi en la socio.

Fakte, por ili labori en la aktuala socio kune kun ordinaraĵoj estas severe. Sed, nun estas la leĝo por “akceli dungadon de handikapitoj”, laŭ kiu ĉiuj entreprenistoj devas dungigi handikapitojn pli ol 2,2 procentoj de tutaj dungitoj. Tial, por la malpezaj handikapitoj naskiĝas la vojoj por labori en ordinaraĵoj laborejoj, dum por la pezaj estas preparitaj malgrandaj metiejoj por simpla laboro.

Dankante la edukon, kiun ricevas mia nepino, mi nun rememoras la figurojn de la gepatroj de la lernantoj en la lernejo, kie mi laboris antaŭ ĉ. 20 jaroj. Kiel ŝoke, kiam ili eksciis, ke ilia ido havas malavantaĝojn! Devas esti, ke ilin atakis malespero. Sed kontraŭe, en ilia kutima stato, kiun mi vidis ĉiufoje, mi sentis humoron gajan, freŝan, kaj amplenan. Ĉu malantaŭ la ŝanĝo estas la fakto, ke ilia infano povis havi esperon?

Retrorigarde, en mia nepino, kvankam malrapidege, multiĝas agoj, kiujn ŝi ellernis. La edzino de mia filo, nome ŝia patrino, kun espero defias ĉiutage kreskigi ŝin. Iutage ŝi murmuris, “Tiu ĉi filino estas anĝelo en mia familio.” La vorto ĝojegis nin, geavojn, ĝis larmoj.

第 70 回関西エスペラント大会

La 70a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

日 時：2022年6月18日（土）～19日（日）

会 場：大阪市立中央会館

〒542-0082 大阪市中央区島之内2丁目12-31

主 催：大阪エスペラント会

一般社団法人関西エスペラント連盟

後 援：（申請予定）大阪市、大阪市教育委員会、

大会ウェブページ：

<http://www.kleg.org/kek/kek70/kek70.htm>

メールアドレス：

kek70osaka@gmail.com

大会テーマ：コロナ禍のなかでも知恵を絞って活動を続けよう！

Ni daŭrigu nian agadon kun saĝo eĉ en la pandemio!

日本におけるコロナ禍は2020年1月に始まり、今年で3年目になります。関西大会としても第68回、第69回、今回の第70回とコロナ禍の中での3回目の大会となります。その間、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などで、会場の閉鎖、人数制限、時間短縮などで大会延期、例会休会、短縮など活動に支障をきたしました。先進的なロンドは最近の通信技術を取り入れ、在宅でリモート例会を行い、活動を続けています。リモート例会をやりたいがやり方がわからないというロンドは、やり方を教えてもらい、メカに弱くから無理というロンドは、リモート例会でなくとも活動の方法はないか知恵を絞っていただきたいと思います。コロナ禍の中で、普段の活動ができなくても、別の方法で活動を継続できないかを話し合う大会にしてほしいと願い、上記の大会テーマを掲げました。

公開講演としては、長谷川テル研究者の西田千津さんに「長谷川テルをとおして平和を考える」と題して講演していただきます。西田さんは中国近現代史を専門にしておられますが、日本で長谷川テルの知名度が不当に低いと考えるようになり、長谷川テルの反戦思想を研究テーマとして取り組んでいるそうです。大阪・長谷川テル顕彰の会はテルの著作を集め、著作集を作ろうと活動しています。また、奈良・長谷川テル顕彰の会は奈良の般若寺にテルの顕彰碑を建てる計画を進めています。すでに日本語・中国語・エスペラント3言語の説明文も決まり、碑建立の募金活動を始めています。

公開番組としてはもう1つ「野田淳子・中西史子ジョイントコンサート」があります。シンガーソングライターの野田さんと、日本人唯一のプロのヤトガ（モンゴル箏）奏者の中西さんが共演する異色のコンサートです。どんなコンサートになるのでしょうか？楽しみです。

大会記念品は、今回は本ではなく、野田淳子さんがエスペラントで歌う歌10曲を収録したCDです。



日程

第1日目 6月18日(土)

10:00～ 受付開始
10:00～12:00 大会前遠足
13:00～14:45 分科会
15:00～16:30 開会式
16:30～18:00 Gaja Vespero (楽しい夕べ)
18:30～20:30 Bankedo (懇親会)
[開催する場合の時間帯]

第2日目 6月19日(日)

9:30～ 受付開始
9:30～11:20 分科会
10:00～11:20 公開入門講座
11:20～11:40 記念写真撮影
11:40～13:00 昼食 休憩
13:00～14:45 公開講演
15:00～16:00 公開コンサート
16:00～16:30 閉会式

公開番組

(1) 公開講演:「長谷川テルをとおして平和を考える」

6月19日 13:00～14:45

長谷川テル研究者の西田千津(にしだちづ)さん
(奈良・長谷川テル顕彰の会)による講演。

(2) 野田淳子・中西史子ジョイントコンサート

6月19日 15:00～16:00

シンガーソングライター野田淳子(のだじゅんこ)さんと日本人唯一のヤトガ(モンゴル箏)奏者 中西史子(なかにしふみこ)さんとの異色のジョイントコンサート。

(3) 公開入門講座

6月19日 10:00～11:20

エスペラントってどんなことばだろう?と興味を持っている一般市民向けの入門講座。

大会前遠足 大阪歴史博物館 難波宮(なにわのみや)跡

6月18日 10:00～12:00

当初、難波宮跡の見学を計画しましたが、現在コロナ禍のため、中止になっています。この遺跡の敷地内に建つ大阪歴史博物館最上階 10階に古代の展示エリアがあり、奈良時代の難波宮の大極殿を原寸大に復元した空間があります。9

階は中世・近世、8階は「歴史を掘る」、7階は近代・現代の常設展示場で、これを見学すれば、大阪の歴史が概観できます。遺構見学が再開されていれば、見学を優先します。申込書には参加希望欄を設け、希望者に開催の有無、集合場所などをお知らせします。申込期限 5月15日。参加費は当日集めます。

Gaja Vespero (楽しい夕べ)

6月18日 16:30～18:00

毎回好評の池田エスペラント会の狂言が今大会でも演じられます。出演大歓迎です。事前の申し込みをお願いします。申し込みがあり次第、ホームページでお知らせします。

Bankedo (懇親会) 開催予定

6月18日 18:30～20:30

コロナ禍がおさまり、条件が整えば開催します。申込書に参加希望欄を設け、開催の場合は希望者にお知らせします。申込期限 5月15日。参加費(5,000円程度)は当日集めます。

並行番組 (分科会)

6月18日 13:00～14:45, 6月19日 9:30～11:20

時間、部屋の割り振りは申込期限の5月15日後に行います。限りある室数のため先着順とします。申込状況は、ホームページでお知らせします。

・外国人と語る会

・エスペラント講演

海外からエスペランティストを招待するのは難しい状況なので、日本在住者を招待し、実現したいと考えています。

・大会ミニ大学

・作文教室

講師、内容など決まり次第お知らせします。

・各団体申込の分科会

例年、科学者・医学者の会、大本分科会などから申し込みがありました。他の団体の申込もお待ちしています。

昼食・休憩 6月19日 11:40～13:00

近くの食堂をご利用ください。弁当を買ってきて会議室で昼食をとることもできます。

大会一般情報

大会参加費その他

- | | | |
|----------------|-------|----------|
| ① 一般参加者 | 4月末まで | 3,500円 |
| ② 一般参加者 | 5月末まで | 4,000円 |
| ③ 一般参加者 | 6月以降 | 4,500円 |
| ④ 学習開始一年未満の新人 | | 2,000円 |
| ⑤ 青年(35歳未満) | | 1,000円 |
| ⑥ 20歳未満(記念品なし) | | 無料 |
| ⑦ 障がい者 | | 2,500円 |
| ⑧ 不在参加 | | 2,500円 |
| ⑨ 記念写真 | | 500円 |
| ⑩ 大会前遠足 | | 実費、当日徴収 |
| ⑪ 懇親会(開催の場合) | | 希望者に別途案内 |
- ・年齢制限は、大会当日の年齢によります。
 - ・不在参加は、「出席はできないが大会を応援しよう」と思ってくださいの方が対象です。大会後記念品と資料をお送りします。

★大会記念品：“Junko kantas Esperante”

シンガーソングライターの野田淳子さんがエスペラントで歌う歌 10 曲 (CD)。

Feliĉan nasktagon, ABC (ヤスイヨシオ作曲のもの), La Lasta Rozo, Kanto de kvar sezonoj, La hejmloko, Sed ŝvelos nia esper', Ĉi tiu vojo, Al amiko malproksima, Kion postlasis la viro per la morto, La granda kantado.

★Kongresa Salono (大会サロン)

ちょっと休憩していただける場所をサロンとして設けます。Libroservo も開設し図書などを展示しますので、手にとってご覧ください。

★宿泊：各自で確保願います。

★申し込み方法

専用の振込用紙に必要な事項を記入の上、ご送金ください。ゆうちょダイレクトでご送金の方は、内容を別途メールでお知らせください。

郵便振替口座：00970-7-186418

口座名：関西エスペラント大会

★申込受付期限

分科会・Gaja Vespero 出場・大会前遠足・Bankedo (開催した場合の参加希望)

申込期限：5月15日

★連絡先：第70回関西エスペラント大会実行委員会
〒561-0802 豊中市曽根東町1-11-46-204
関西エスペラント連盟 気付
電話：06-6841-1928、ファクス：06-6841-1955
メール：kek70osaka@gmail.com

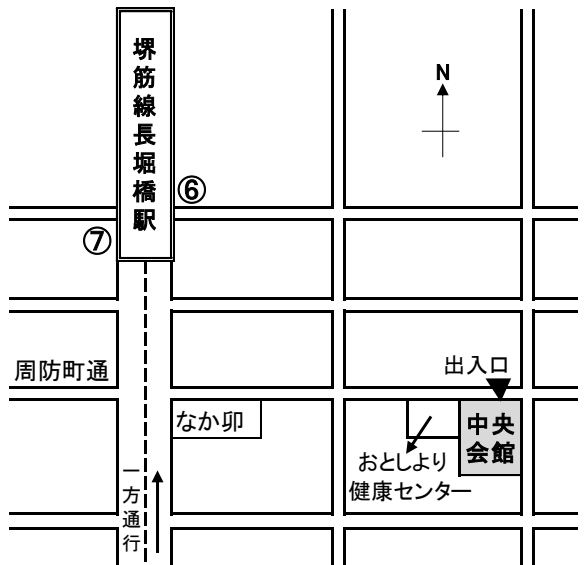
★会場へのアクセス

会場：大阪市立中央会館（島之内図書館、中央スポーツセンターも同じビル）

大阪市中央区島之内2-12-31

大阪メトロ堺筋線「長堀橋」駅下車 D 階段南改札口を出て⑦番出入口から堺筋を南へ約 200m、周防町通（すおうまちどおり）を東へ 100m、おとしより健康センターの東側。（堺筋線長堀橋駅には地上に出るエレベータはありません。必ず D 階段のエスカレーターを使い、南改札口を出て⑦番出入口から出ると信号が一つ少なくてすみのでお勧めです。「なか卯」の店があるところが堺筋周防町交差点。）

周辺地図



コロナ禍が終息に向かってくれればいいのですが、現時点では予測が困難です。変更点が多々出てくるかもしれません。変更点、新たな決定事項などは大会のホームページや La Movado 誌でお知らせしますので、これらをご覧ください。

La 70a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

Dato: 2022.6.18(sabato)-19(dimanco)

Kongresejo: Tyûô-Kaikan (Ĉuuoo-Kaikan)
Ôsaka-si tyûô-ku simanouti 2-12-31

Organizas:

Osaka Esperanto-Societo

Kansaja Ligo de Esperanto-Grupoj (KLEG)

Kongresa temo:

Ni daŭrigu nian agadon kun saĝo eĉ en la pandemio!

Programo de la 18a de julio:

10:00~ akceptado
10:00~12:00 antaŭkongresa ekskurso
13:00~14:45 laŭtemaj apartaj kunvenoj
15:00~16:30 inaŭguro
16:30~18:00 gaja vespero
18:30~20:30 bankedo (se okazigota)

Programo de la 19a de julio:

9:30~ akceptado
9:30~11:20 laŭtemaj apartaj kunvenoj
10:00~11:20 enkonduka kurso (publika)
11:20~11:40 komuna fotado
11:40~13:00 tagmanĝo kaj ripozo
13:00~14:45 japanlingva prelego de s-ino
Nishida Chizu pri Hasegawa Teru
(publika programero)
15:00~16:00 koncerto de s-inoj Noda
Junko kaj Nakanishi Fumiko (publika
programero)
16:00~16:30 fermo

Antaŭkongresa ekskurso

Kvankam ni planis la viziton al la ruinoj de Naniwa-no-miya (Palaco de Naniŭa) en antikva epoko, sed pro koronavirusa pandemio nun oni ne povas viziti ilin. Historia Muzeo de Osako staras sur la ruinoj, kaj la plej supra 10a etaĝo estas ekspoziciejo por antikva epoko. Kaj tie troviĝas Daigokuden (Ĉefa Salono) restaŭrita al sia origina grandeco. La 9a etaĝo estas mezepoka kaj fru-moderna, kaj la 7a etaĝo estas moderna kaj nuntempa. Se vi vizitas tiujn ekspoziciejojn, vi povas ricevi superrigardon de la historio de Osako.

Se la vizito de la ruinoj estos remalfermita, vi povos viziti ĝin.. Ni demandas vin pri via partopreno en la aliĝilo, kaj poste informos la partoprenontojn pri detalo. Limdato pri aplikaĵo la 15-an de majo. Bonvolu pagi la kotizon en tiu tago.

Kongresa memoraĵo

“Junko kantas Esperante” (KD). Dek kantoj kiujn kantas kantaŭtoro s-ino Noda Junko.

Feliĉan nasktagon, ABC, La Lasta Rozo, Kanto de kvar sezonoj, La hejmloko, Sed ŝvelos nia esper’, Ĉi tiu vojo, Al amiko malproksima, Kion postlasis la viro per la morto, La granda kantado.

Kotizo kaj aliaj prezroj

- ① aliĝo ĝis la fino de aprilo 3,500 enoj
- ② aliĝo ĝis la fino de majo 4,000 enoj
- ③ aliĝo post la 1a de junio 4,500 enoj
- ④ novulo malpli ol 1 jaro 2,000 enoj
- ⑤ junulo malpli ol 35-jara 1,000 enoj
- ⑥ junulo malpli ol 20-jara senpage
(sen kongresa memoraĵo)
- ⑦ handikapulo 2,500 enoj
- ⑧ morala aliĝo 2,500 enoj
- ⑨ komuna foto 500 enoj
- ⑩ antaŭkongresa ekskurso neta kosto
(pagu 18an de junio)
- ⑪ bankedo (se okazigota) ĉ. 5,000 enoj
(pagu 18an de junio)

Kiel atingi la kongresejon

La kongresejo Tyûô-Kaikan (Ĉuuoo-Kaikan) situas proksime de la stacio “Nagahoribaŝi (Nagahoribaŝi)” de la linio “Sakaisuzi” de Osaka Metro. Ekde la stacio oni povas atingi ĉirkaŭ 7 minutojn piede.

Pri detaraj informoj kontaktu kun

Loka Kongresa Komitato (LKK)

Osaka Esperanto-Societo (OES)

Aliĝon akceptas

Kansaja Ligo de Esperanto-Grupoj (KLEG)

Retadreso por ambaŭ organizoj:

kek70osaka@gmail.com

TITtejo por la kongreso:

<http://www.kleg.org/kek/kek70/kek70.htm>

Rememoro Antaŭ Duonjarcento — pri “La Movado” —

SIBAYAMA Zyun'iti (Kanagawa)

Ferian tagon en aprilo 1972, mi elpaŝigis min el negranda stacidomo Nakatsu (中津), nur unu stacion for de la urbocentro de Oosaka de la Fervoja Linio Hankyu. Tie staris malnova ligna domo de KLEG (siatempe, Kansai-Ligo de Esperantaj Grupoj). Fininte Universitaton Tohoku en tiu marto, mia nova vivo komenciĝis en tiu distrikto, nome mi loĝis en Nisinomiya kaj laboris en Amagasaki, ĉiu laŭ la Linio Hankyu. En la baraka domo de KLEG (fakte, tiam jam oni havis kampanjon loĝi en plibona domo, poste efektivigita en la nuna loko Toyonaka), mi unuafoje vidis s-ron Miyamoto Masao kaj s-ron Konisi Gaku, kiu lasta ĵus fariĝis profesoro de la Universitato Kwansei-Gakuin. Tie s-ro Miyamoto invitis min esti unu el la redaktantoj de “La Movado” (LM), kies leganto kaj eĉ kelkfoja kontribuinto mi estis.

En la decembra n-ro de 1972, mi aperigis raporton pri Jokohama Esperanto-Rondo, ĉar mi havis relative multe da okazoj oficvojaĝi al Urbo Kamakura, kie estas alia fabriko de la laborejo, kaj tiam mi utiligis tempon por ferie viziti la rondon. Mia redaktista vivo finiĝis en 1981, kiam mi estis ordonita labori en tiu loko en Kamakura (kaj emeritiĝis tiuloke en 2010).

Nu, la redaktantaro de LM, laŭ mia sento, havis konkuran senton al la same monata organo “La Revuo Orienta” (RO) de Japana Esperanto-Instituto — kia sorto, ke mi nun redaktas tiun ĉi organon! Unu el la konkuraj ekzemploj estas la jara indekso de artikoloj en decembra numero. LM komencis tion en 1975, kaj RO sekvis nin en 1977. En tiu 1975 komenciĝis serio por prezenti movadanon fare de alia persono. En la planado mi proponis seriotitolon “Jen ŝi” aŭ “Jen li”, laŭ la persono prezentata. Sed laŭ ideo de s-ro Miyamoto, la

fina titolo fariĝis “Jen ŝi, jen li”, senkonsidere al la prezentato.

Iun fojon mi raportis pri Esperanta evento, subtenata de la urba kultura komitato aŭ io simila. Tiam ne-esperantista gravulino de la eventoloko donacis al ni ion, kion ŝi nomis “soŝina” (粗品) laŭlitere “mizera donaco”, nome la sinhumiliga esprimo, deca en la japanlingva kulturo. Kaj mi uzis tiun vorton “soŝina” en la japanlingva raporto. Poste, mi estis skoldita de s-ro Miyamoto ke mi malhavas socian decon, do ne skribu ke ni ricevis mizerajon. En la posta numero aperis pardonpeta artikoleto pri tio.

Tiutempe, la gazeto estis farita per kompostado de litertipoj, kaj la manuskripton oni mane skribis sur speciale aranĝita kadro-folio (原稿用紙) kiu havas kadron de horizontale 26 literoj japanaj, kaj vertikale 12 kadrolinioj. En unu kadro venas unu litero japanlingva (ĉina ideogramo aŭ kanao), sed du literoj alfabetaj aŭ ciferaĵoj. Siatempe, s-ro Miyamoto estis taskita de JEI por kompili japanan-esperantan vortaron, kaj uzis kadro-folion kun 25 literoj horizontale kaj 12 linioj vertikale, aranĝita de JEI. Nu jam preskriptiĝis kaj mi konfesas, ke fojfoje ni la redaktantoj uzis tiun por-vortaran kadro-folion, skribante 1 plian literon ekster la kadro.

En 1968 kaj 1969 estis serio pri frazfarado de s-ro Konisi Gaku kaj s-ro Nakamiti Tamihiro, sed ne daŭris. En 1973 oni rekomencis la serion per la nova redaktanto s-ino Maekawa Noriko (前川典子) sed tio estis nur ĝis 1974, ĉar ŝi juna fariĝis malsana; tre bedaŭrinde, ŝi forpasis en 1977, ne povinte resaniĝi de la malsano. Mi sekvis ŝian laboron kaj faris serion de 1975 ĝis 1977.

Mi finu mian sporadan babilon ĉi tie.

Ŝoseo tra Azio

vorticelo

Eble vi scias pri ŝoseo inter Alasko kaj la suda ekstremo de Argentino, en la angla "Pan-american Highway" en la hispana "Carretera Inter-americana". Kiam mi vivis en Gvatemalo, tre ofte mi vidis multajn vojaĝantojn en motorbiciklo kiuj preterpasis ĝin.

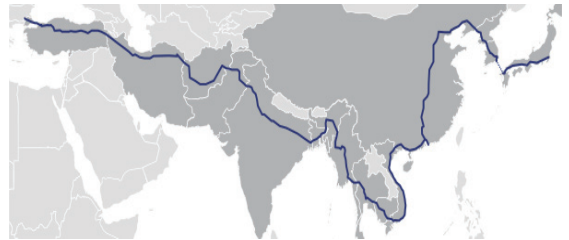
Lastatempe mi eksciis ke ankaŭ Azio havas tiajn longajn ŝoseojn. Laŭ mia studo estas ok vojoj nomataj "ŝoseo de Azio". Ĉi tiu indikilo fotita troviĝas sur la ekspresa aŭtovojo Tyŭgoku apud la interŝanĝo Suita. AH1 estas la plej longa el AH-oj kaj ĝi havas 20,710 km-jn.

Se oni ekveturus el Tokio, de Hukuoka pramus al Sud-Koreio, cetere tra Nord-Koreio, Ĉinio, Vjetnamio, Kamboĝo, Tajlando, Mjanmaro, Bangladeŝo, Bharato, Pakistano, Afganistano, Irano, kaj fine atingus Turkion.



Estas landoj malpermesitaj eniri kaj regionoj kie oni forflugus per mino aŭ kuglego.

Mi volas vivi kiel eble plej longe ĝis kiam la paco regos tiujn landojn, kaj vojaĝi sur ĝi ankaŭ en motorbiciklo. Ĉu parolante Esperanton, mi ne certas.



Monumento pri Sinran

Redakcio

En la urbo Kioto oni trovas diversajn monumentojn de loko al loko.

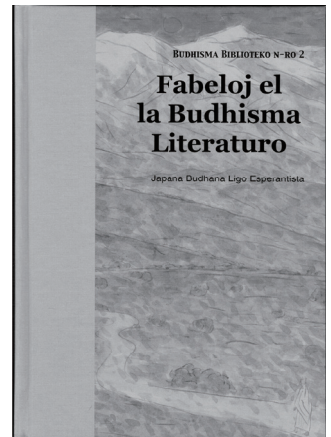


Jen estas unu el ili. La monumento montras la lokon, kie mortis bonzo Sinran (1173-1263). En tiu loko estis lia domo, kiu nun estas templo

nomata Kôen-zi (光園寺) ĉe Nisinotoin-Matubara.

Sinran estis la fondinto de budhisma sekto Zyodo-Sinsyu, kies ĉefaj temploj estas Higasi-Hongan-zi kaj Nisi-Hongan-zi.

Higasi-Hongan-zi iam eldonis belajn librojn, kiuj enhavas fabelojn el budhismaj sutroj. Ĝin verkis s-ino Watanabe Aiko, kaj la verkon tradukis s-ro Yamaguti Sin'iti en Esperanton.



コロナ下の例会運営の一例

京都エスペラント会 水曜クラス

何年も前から、例会や学習会にインターネットを取り入れているロンドはありましたが、2020年からの新型コロナウイルス流行により、やむを得ずネットを利用するロンドや行事が増えました。それぞれの団体に合わせた工夫があることと思います。

京都エスペラント会には現在、3つの例会があります。月曜日 19:30—20:30、水曜日 14:00—16:00、土曜日 10:00—12:00 です。月曜はネットのみ、水曜はネットと直接出席の併用、土曜はネットなしの例会です。会議ツールは今のところ、スカイプを使っています。以下この中の水曜例会について具体的に説明します。何かの参考になれば幸いです。

例会にネットを取り入れたのは、2020年の4月でした。新型コロナの感染機会を少しでも減らそうと、それまでエスペラント会館に集まっていた例会に、ネットを取り入れることにしたのです。ネット会議についてほとんど知識がなかったので、以前ちょっと使ったことがあるスカイプをとりあえず使うことにしました。いろいろな会議ツールがあることは聞いていても、比較してより良い物を選ぶという知識はありませんでした。

最初は右往左往

最初はうまくいきませんでした。スカイプそのものはすでにパソコンに入っているという人が多かったので、とにかくアカウントを取って、各自のパソコンをそのURLにつなぎ、テストをしてみました。ところがうまくつながらないとか、顔は見えるのに声が聞こえないとか、すんなりいかない。何度もテストしてみて、結局できるようになったのですが、何が原因でうまくいかなかったのかは結局わからずじまいでした。また、一度か二度自宅のパソコンでつながったけれど、その後うまくいかないで、結局、会場への出席組に切り替えた人もいました。

現在の状況

現在、例会場のエスペラント会館に集まっている常連は光川澄子・水渡篤子・相川節子の3人、スカイプで参加している常連が野田淳子、森川和徳、吉井滋子、富田成美の4人です。吉井は長浜エスペラント会の会員で、京都エスペラント会には準会員

として参加しています。長浜市の吉井が毎週例会に参加できるのは、ネットのおかげです。

例会の内容は平凡で、いっしょに本を読んでいます。'21年9月までは"Vojaĝo de Onia"の日本編を、10月からは"Vojaĝo de Onia"のヨーロッパ編を読みました。'22年3月からは"Ivan la malsaĝulo"にとりかかります。

"Vojaĝo de Onia"の時は、1ページずつ担当を決め、それぞれ音読と解説をしました。"Ivan la malsaĝulo"は1ページの文字数が多いので、半ページずつにしました。それぞれ、最低限自分の受け持ち部分だけは熱心に予習することになります。

仕事のためなどで休むときは、訳をあらかじめファクスか電子メールで送ります。

地域ロンドの意義

新型コロナウイルスの流行が収まって、会場での参加とネット参加の両方を使うというやり方は変わらないでしょう。遠隔地の会員も、主婦業が忙しく自宅にいる時間を確保したい会員も、ネット例会の便利さを享受しているからです。

地方ロンドの例会だけではない。'21年は世界大会も日本大会も完全リモートでした。エスペラント普及会の研修会もリモートで行われました。

これなら、地域で会を作って集まる必要があるのだろうか、それより関心分野や語学レベルが同じ人がリモートで連絡をとりあう方が効率的ではないか、という考えもあり得ます。

しかし、地元の文化事業に参加したり、地元の新聞社やケーブルテレビ局に情報提供したり、姉妹都市のエスペランティストと連絡をとりあったりという活動は、地域に根ざしたロンドしかできません。今は国外からのお客様を迎えるのは難しいのですが、特に京都では、国外からのエスペランティストを迎え、もてなし、その活動を通じてエスペラントの実用性を市民に知ってもらうことが必要です。

ネットがあっても、地域の会の看板を降ろすことはできないと思います。





エスペラント版 仏教聖典について

山口 真一

(日本仏教エスペランティスト連盟)

仏教伝道協会発行の『仏教聖典』

のエスペラント版は 1984 年に発行されました。協会側から「オリジナル版の部分改定にあわせて諸言語版も改定してほしい」との要望を受けまして、当連盟では昨年に部分改定を、そして本年 1 月に全面改訳をほどこしました。日本語版や英語版では書籍のかたちで増刷を重ねていますが、それ以外の言語ではオンデマンド出版となります。

そのかわり、インターネット上で PDF ファイルが自由に閲覧ダウンロードできます。



<https://bdk-seiten.com/scripture-download.php>

版元は仏教伝道協会です。

(メーリングリスト *esperaantosocietoj* より転載)

Okazas milito en Ukrainio

En Ukrainio la popolo suferas danĝeron de bombaroj, manko de vivnecesaĵoj kaj medicino, kaj sia vivo mem, pro agreso komencita en la 24-a de februaro de rusa armeo.

Ne malmultaj esperantistoj havas amikojn en Ukrainio. Ili zorgas la amikojn kaj sendas kuraĝigajn leterojn pere de la interreto.

En ret-grupo "eraj*-anoj" la membroj esprimas zorgojn pri siaj ukrainaj amikoj. Kelkaj membroj prezentas raportojn de tieaj esperantistoj. Unu el la membroj sciigas pri maniero finance helpi la viktimojn pere de UEA. UEA havas konton por helpi viktimojn de natura katastrofo aŭ milito: Konto Espero.

<https://uea.org/alighoj/donacoj/espero>

*Esperantaj Ret-Amantoj Japanaj

2022.04

京都で入門講座

京都エスペラント会は、4月に入門講座を行う。

日時: 2022年 4月 9日～5月28日 毎週土曜日

午前10時～12時

会場: 貸会議室エスペラント会館

(京都市下京区西洞院五条上る)

交通: 地下鉄・五条駅から西へ500m

市バス50系統でバス停「五条西洞院」下車

費用: 3000円(受講料8回分+テキスト)

学生1500円

※初回だけの参加は無料

教材は日本エスペラント協会発行の『ドリル式エスペラント入門』、講師は森川和徳さん。問い合わせ先は電話・ファクス 075-343-3120 (エスペラント会館) 電子メール esperanto_kioto@yahoo.co.jp リモートでの入門講座も随時行う。

[←会報 *Leterkolombo*]

「中四国だより」1000号に

メールマガジン「中四国だより」(*Bulteno de Tyŭgoku kaj Sikoku*) が、2月16日に1000号めを発行した。

「中四国だより」は、中国・四国エスペラント連盟の情報を中心に、国内外のエスペラント界のできごとについて、小阪清行さんが発信している。

連盟・ロンドの近況

中四国連盟

原則として毎月最終日曜日、午後8時～9時にオンラインミーティングを行っている。2月27日には、広島エスペラント会が作成した、広島を案内する映像が披露された。次回は次回は、ウクライナに滞在経験のある荒井さんが話す予定。

[←中四国だより]

吹田エスペラント会

堀泰雄さんが主宰する「エスペラント相撲」に参加、それぞれの読書感想文を機関誌で公表している。

[←機関誌 *La Vento*]

(注)「エスペラント相撲」は、大相撲の期間に合わせて15日間、自分で決めたページ数を毎日読み、読めたかどうかを世話人を通じて報告するもの。

やさしい本の紹介(2)

編集部

本誌 844 号でやさしい本を紹介しましたが、その第 2 弾です。前は「やさしいと思った」「読みやすかった」という声を聞いた本をとりあげましたが、今回は編集部自身が「読みやすい」と感じた本を紹介します。

La verda koro

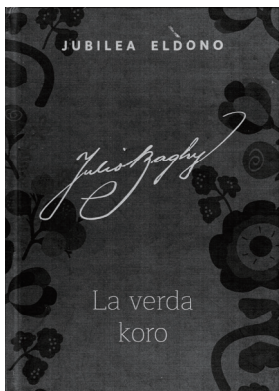
シベリアの捕虜収容所にいる主人公が、さまざまな国籍の捕虜たちや地元の人たちにエスペラントを教えている。そういう情景から話が始まり、捕虜たちやロシア人との交流が描かれています。初版は 1937 年、2019 年の段階で第 7 版。版を重ねていることは、本を評価する基準のひとつです。

書き出しの文を紹介すると、

Lernoĉambro en siberia Popola Domo. Unu pordo, du fenestroj. La pordo estas malalta, la fenestroj estas mallarĝaj.

いかがでしょう。初心者でも難しくない文だと思われませんか。著者の Julio BAGHY は、初心者のための読み物という目的でこの本を書いたのでしょう。小説の形をとっていますが、著者自身の経験がもとになっているそうです。

ただ、昔の本なので、現在のエスペラントなら使わないだろうという言い方も、ほんの少しです。たとえば: Li instruas. La lernantoj kaj lernantinoj komprenas lin.



lernantoj が男性の講習生、lernantinoj が女性の講習生を表しているのですが、現在のエスペラントなら lernantoj だけで十分です。ほかにも -in- の多用が感じられますが、これは昔のエスペラントがそうだったからで、この本に限ったことではありません。

Bunsun kaj Aiko

こちらは新しい本で、発行は 2020 年。物語の舞台は 1970～80 年代の韓国と日本です。

物語と言いましたが、内容の大部分は手紙文

で、主人公の韓国青年 Sung と、岐阜県に住む女性 Bunsun がかわした手紙が時系列順に並べられています。地の文は Sung の一人称になっています。では Aiko って誰？それは読めばわかります。

特に初心者向きを意識して書かれた本ではないと想像しますが、初心者にも読みやすい内容です。

ふたりの恋はゆっくり進行し、そして……少し切ない思いで読める青春小説ですが、行間を広くとった印刷が美しく、視力が衰えた高齢者にとっても親切な本です。

Ivan la malsaĝulo

トルストイが書いた童話で、原作はよく知られています。

実は初心者向きの本ではありませんが、ここでなぜ紹介するかというと、巻末に単語リストがついて、その意味で初心者にとって親切な本だからです。

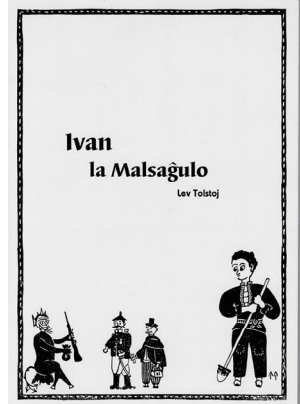
1 ページ読むのに 5 回も 6 回も辞書をひいていたら、それだけで疲れてしまい、どんなにいい本でも数ページで挫折してしまう。そういう初心者のために、本のおしまいを見れば意味がわかる単語リストがあります。辞書だと、第一義だけ見れば済むわけではなく、あてはまるのが第三義、第四義だったり転義だったりして、正解にたどりつくのに時間がかかる。でもこの本のための単語リストがあれば、一瞬で正確な意味を知ることができます。

内容は、主人公のイワンたち三人兄弟を仲たがいさせようと、悪魔がいろいろ画策するという、民話風のお話です。単純に民話として楽しむことも可能ですが、労働とは何か、富とは何か、平和とは何かについて、トルストイの考えに思いをはせながら読むのもいいのではないのでしょうか。

Bunsun kaj Aiko

Rememore al Mia Unua Amo

Verka Cho Sung Ho



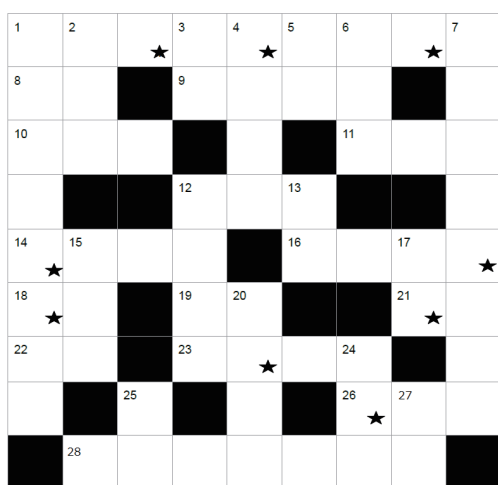
Vortkruca enigmo

TAHIRA Minoru

Vicigu adekvate 9 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun stelo. Tiam vi akiros nomon de sankta antikva lingvo.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de aprilo, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.



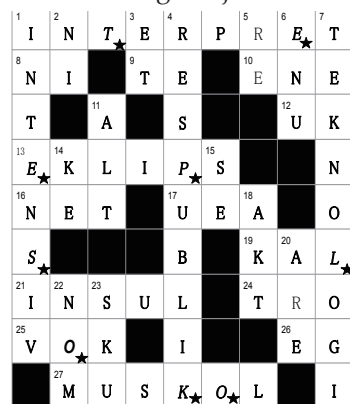
Horizontale: 1. La Biblio inkluzivas la Malnovan ~on kaj la Novan ~on.(x) 8. Saluton, ĉu vi nun estas ~ magazeno?(x) 9. Ni volas ~i gravediĝi provizore.(x) 10. Ĉu vi povas ~i tenison?(x) 11. Esperanto ne estas ~ lingvo. (x) 12. Tomatoj hodiaŭ estas ~ dolĉaj.(x) 14. Eltiru la ~on! Batalu!(x) 16. Ĉu vi volas ~i min, sinjorino?(x) 18. Mi vidas, ~ vi estas alloga. (x) 19. En ~ senco vi estas prava.(x) 21. ~ kaptis mian atenton survoje ĉi tien.(x) 22. ~fiŝoj estas kutime ruĝaj.(x) 23. Mi admiras vian ~econ.(x) 26. La kaŭzo de la Opimilito estis, kompreneble, ~o.(x) 28. ~o, alinome arakido, estas fabo, ne nuksoj.(x)

Vertikale: 1. La uzoj de la ~o estas astronomia observado kaj kaŝrigardado.(x) 2. Ĉu vi jam

~as nian geedzan vivon?(x) 3. La ~ceremonio resanigas la menson.(4) 4. "Ne estu tiel ~a!" "Mi nur estas ŝparema."(x) 5. "Ĉu ~ estas narcisisto?" "Certe, vi estas kiel narciso."(x) 6. "Ĉu vi povas manĝi ~an manĝaĵon?" "Se ĝi ne estas tro spica."(x) 7. Vivaĵoj instinkte volas vastigi sian ~on.(x) 12. En tiu tempo, tie vivis neevoluinta ~o konata kiel homaro sur la Tero, provanta malfluigi niajn nifojn per sagoj aŭ misiloj.(x) 13. ~aj eksterteranoj(x) 15. Kio estas urbo de bongusta ~o kaj akvo?(x) 17. ~ estu amikaj kun eksterteranoj!(x) 20. Duelo kun leono ĉe la ~o? Veku min, se ĝi estas inkubo. (x) 24. Ĉu iu ~is min? Mi estas en banejo. (x) 25. ~ vi estus knabino, mia katino!(x) 27. Mallongigo de posta skribo.(x)

La solvo al la februara enigmo: **TELESKOPO**
La ĝustan solvon donis 11 legantoj:

CA
Sayuri
濱田 國貞
TADA
島津 泰子
平井 倭佐子
Grebo
本田 照美
にしのりこ
松川 まきこ
Kacu



楽しい作文教室 (128) 成績

10人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね：ヒー坊 (① je と対格), 松村 (① ekde, keldek), ikona (① subtere ② surpré)。

良いね：Ivajo (① dekoaj), CA (① kelkdekajn), Drako (④ nur), Jasuko (② fondiĝita), Haveno (① kelkdekajn), Celejo (② meltanta), Eiko (① kelkdekajn)。

「La Movado 画像閲覧検索プログラム」 を購入されている方へ

2014年1月～2021年12月までの号を追加したDVDを作成しましたので、実費1000円で配布します。希望者はKLEG事務局へ申し込んでください。

なお、2014～2021年の追加データを自分でダウンロードすることもできますので、希望者はKLEG事務局へお問い合わせください。

また、画像閲覧検索プログラムを新規購入する場合は6800円（La Movado購読者は5000円）です。創刊号からの誌面を収録しており、記事タイトルや筆者名による検索ができます。画像データなので、記事に使われている単語などによる検索はできません。なお、初期の号は謄写印刷のため、不鮮明な部分もあります。

第108回日本エスペラント大会

2022年9月23日（金・祝）～25日（日）
八王子市学園都市センター

楽しい作文教室5月号課題（4月20日締切）

- ①彼のおかげで目下の問題が改善できた。
- ②あの道路が建設されて交通量は倍増している。
- ③しかし喜んでばかりもいられない。
- ④おかげで渋滞がひどくなってしまった。

（ヒント）改善する plibonigi、交通量 trafiko、渋滞 stopiĝo、aktuala、feliĉa を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先：

〔郵送〕〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

〔電子メール〕c_tak@esperanto.ne.jp

（件名に「作文」の文字を入れてください）

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG 事務局だより

★4月より営業日を変更します。

毎週月曜から金曜（祝日を除く）。

第1, 3土曜（第2, 4, 5土曜は休業。）

営業時間は10時から17時で変更ありません。

★新型コロナウイルスのおかげで、例会を開催できない Rond も多いのではないのでしょうか。こういう時は、自宅で読書が一番。本誌と一緒に発送した「図書目録2022」をご参考にどうぞ。追加発送をご希望の方は、お知らせください。

★3月26日（土）は、10時から棚卸しを行います。お手伝いいただける方は、事前に事務所にご連絡ください。交通費と昼食代をお支払いします。

★KLEGは3月末が決算です。まだ21年度の会費を支払ってない Rond は、早めの清算をお願いします。

K L E G 後援会へのご寄付

（2022年2月、敬称略）

匿名（切手として）	6,280円
匿名	5,600円
匿名	5,000円
三瓶圭子	2,000円

ご支援、ありがとうございます。

第71回関東エスペラント大会

2022年5月28日（土）29日（日）
八王子市学園都市センター

Kurantaj Vortoj

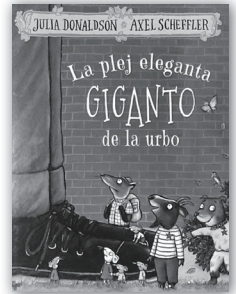
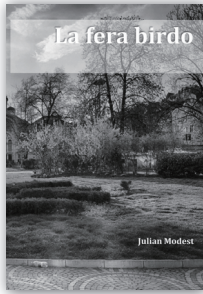
コンシード koncedo (je glitŝtonludo)

国際銀行間通信協会 SWIFT

Societo por tutmonda interbanka telekomuniko

燃料気化爆弾 bombo termobarika

クラスター爆弾 grapolbombo



★ 新刊・新着 ★

La fera birdo 1300円
Julian Modestの最新短篇集。人生の一コマを鮮やかに描く味わい深い30作品。A5判、99p.

Solaris 2200円
惑星ソラリス上空のステーションに到着したケルビンは不思議な「海」の謎を探る……。スタニスワフ・レムのSF「ソラリス」。A5判、274p.

Vojago al la centro de la Tero 2200円
地球の中心へ旅だった三人が目にしたのは驚異の世界。ジュール・ベルヌの「地底旅行」。オリジナルのリウーのさし絵もたのしい。A5判、250p.

Praktika fundamento de Esperanto 1400円
Fundamenta gramatiko, Ekzercaro, Universala vortaroなど初期の基本文献をコンパクトにまとめた一書。A5判、181p.

Praktika foto-vortaro 2100円
Lode Van de Veldeの絵解き事典。身の回りのものの単語300を動物・野菜・かたち・色など27のカテゴリーで知る。A5版、53p.

La plej eleganta giganto de la urbo 1500円
新しい服を手に入れご機嫌なジョージは助けを求める動物たちに出会う。ジュリア・ドナルドソンの絵本(シェフラー絵、カーターら訳)。A4変形版、32p.

エロシェンコのシベリアものがたり 800円
高杉一郎翻訳の4作品。「挽歌」「牧歌」「盲目のチュクチ人」「チェスの三手詰め問題」。

Lumo kaj ombro 500円
「枯葉物語」「おちるための塔」など。

La tundro ĝemas 500円
「チェスの三手詰め問題」「挽歌」「牧歌」など。

Malvasta kaĝo 500円
「せまい檻」「虹の国」「魚の悲しみ」など。

Stranga kato 500円
「変り猫」「鷲の心」「恩寵の濫費」など。

La kruĉo da saĝeco 800円
「智恵の壺」など各地の民話に基づく作品。

Cikatro de amo 900円
「愛という字の傷」「ひよこの悲劇」など。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★この号のKajero libervolaは、割り付けの都合で8ページ目に掲載しています。

★第70回関西エスペラント大会の詳細が決まりました。

参加申込書(振替用紙)を同封しています。送金に硬貨を使うと手数料が要るので気をつけてください。



発行所:ラ・モバード社 編集:相川節子 発行人:染川隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共本局:一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曽根東町1-11-46-204

電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール:esperanto@kleg.org

振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ:http://www.kleg.org

九州支局:九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話(0957)43-4352

中国四国支局:中国四国エスペラント連盟内771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷奉子方 電話(088)688-1098